

# 土岐川・庄内川流域治水シンポジウム 開催概要



みんながまもる土岐川・庄内川

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

土岐川・庄内川流域治水協議会は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

- 令和3年11月20日、流域住民の流域治水に対する理解を深めるため、シンポジウムを開催(約150名が参加)しました。
- 基調講演では、土岐川・庄内川の水害における気象的な特徴、注意が必要となる危険な気圧配置などを紹介しました。
- パネルディスカッションでは、事前募集した一般からの質問に答えると共に、行政で実施できるハード面と地域住民も含めたソフト面の両立が必要不可欠であることや、都市計画と防災計画は別物ではなく手を組んでいくことが大事であること等の意見が出されました。
- 式典では、一般投票により決定した土岐川・庄内川流域治水ロゴマークを発表しました。

- 日時：令和3年11月20日(土) 13:30～15:30
- 場所：今池ガスホール(名古屋市千種区)
- 主催：土岐川・庄内川流域治水協議会
- 協賛：(一社)中部地域づくり協会
- プログラム

- オープニング
  - ・土岐川・庄内川流域治水MOVIE
  - ・挨拶 中田 英雄(名古屋市副市長)
  - 堀田 治(国土交通省中部地方整備局長)

## 基調講演「近年の気象災害について」

- ・土井 邦裕(NHK名古屋放送局 気象予報士)

## パネルディスカッション「土岐川・庄内川の流域治水の未来」

- ・コーディネーター…田中 逸人(NHK名古屋放送局 アナウンサー)
- ・パネリスト…………岸田 晃彦(名古屋駅地区街づくり協議会 事務局長)
- 中田 英雄(名古屋市副市長)
- 長谷川 弘(庄内川・矢田川5学区水防連合会 会長)
- 秀島 栄三(名古屋工業大学大学院 教授)
- 古川 雅典(多治見市長)
- 蘆屋 秀幸(国土交通省中部地方整備局庄内川河川事務所長)

## 式典「土岐川・庄内川流域治水のロゴマーク発表」

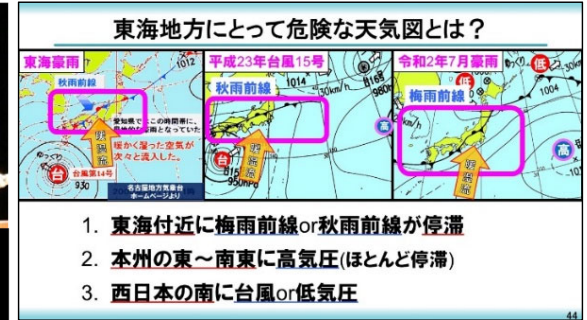
- その他参加者
- 清須市長(永田 純夫)、国会議員(熊田 裕通、古川 元久、丹羽 秀樹、安江 伸夫)、愛知県議会議員(森井 元志、福田 喜夫)、清須市議会議員(高橋 哲生、大塚 祥之、加藤 光則) (敬称略)



## 基調講演



土井 邦裕  
NHK名古屋放送局  
気象予報士



## パネルディスカッション



## 参加者からの声(アンケートより)

- 一般市民向けで理解しやすかったと思う。
- シンポジウムに参加して、流域治水のために沢山の方が様々な取り組みをされていることを知り、とても勉強になりました。一人として何が出来るか考えて、行動につなげられたらと思っています。



ロビーでは土岐川・庄内川流域治水に関わるパネル展(東海豪雨から20年パネル等)を実施



みんながまもる土岐川・庄内川  
土岐川・庄内川流域治水  
ロゴマーク(最優秀賞)



土岐川・庄内川  
流域治水

土岐川・庄内川流域治水MOVIE(庄内川河川事務所YouTubeチャンネルにて公開中)



# 土岐川・庄内川流域治水シンポジウム 開催概要



みんなが暮らす土岐川・庄内川

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

土岐川・庄内川流域治水協議会は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

## 挨拶

名古屋市副市長 中田 英雄

このシンポジウムは、住民の皆様には流域治水の取組に  
関しまして理解をぜひ深めていただきたいと、**私も名古屋市から流域自治体等の皆様に御提案をさせていただいて、実現したものでございます。**

近年、全国各地で気候変動の影響により、今までの施設の能力を上回るような大規模な水災害が発生しております。こうした水災害リスクに対応していくためには、**流域の自治体、企業、地域住民の方、皆さん一丸となって備えていかなければならない**と思っております。

この土岐川・庄内川の流域治水は、今動き出したところでございまして、これを**実効性があるものにしていかなければならない**と考えております。そのためには**住民の皆様と流域治水の考え方、取組などを共有しなければならぬ**と思っており、このシンポジウムがその一助となるのではないかと考えております。



中田英雄  
名古屋市副市長

## 土岐川・庄内川流域治水MOVIE



- ・ オープニングに、土岐川・庄内川の流域で水災害対策に取り組む関係者を紹介する「土岐川・庄内川流域治水MOVIE」を放映しました。
- ・ 本MOVIEは庄内川河川事務所YouTubeチャンネルにて公開中です。

## 挨拶

国土交通省 中部地方整備局長 堀田 治

流域治水は今まで主に河川管理者によって実施されてきた治水とは異なり、**流域自治体の皆様、住民の皆様、また、農林水産業に従事される方々、そして、立地する企業の皆様、様々な方が協働しながら水災害に対応していく**という**言えば全員野球をやって乗り越えていこうと、そこに大きな特徴がある**と考えています。つまり**全員が治水の主体**であるということでございます。

例えば、河川管理者が行う堤防整備などの河川整備事業だけではなく、**住宅などの立地適正化を図りながら災害に強いまちづくりを行うなど、多様な主体が多岐にわたる取組を長きにわたって続けていくことが必要**になってくると考えております。

今回のシンポジウムでは、協働しながら水災害に対応していくという視点から基調講演、そして、パネルディスカッションがされます。我々が進めていく流域治水への理解をこのシンポジウムを通じてさらに深めていただきまして、全国の手本となるような流域治水プロジェクトにしていきたいと思っております。



堀田治  
中部地方整備局長

## 式典「土岐川・庄内川流域治水のロゴマーク発表」



古川 雅典 多治見市長(左)と  
作者代表の小田 洋平氏(右)

- ・ 土岐川・庄内川流域治水協議会は、土岐川・庄内川流域治水のシンボルとなるロゴマークを一般公募し、候補5作品の一般投票を経て、本シンポジウムにて最優秀賞を発表しました。
- ・ 古川 雅典 多治見市長より最優秀賞の表彰が行われました。
- ・ 最優秀賞作品は土岐川・庄内川流域治水のロゴマークとして、今後、土岐川・庄内川での流域治水を広く周知・PRするために活用していきます。

# 土岐川・庄内川流域治水シンポジウム 開催概要



みんがでまもる土岐川・庄内川

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

土岐川・庄内川流域治水協議会は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

## 基調講演

NHK名古屋放送局 気象予報士 土井 邦裕

### 「近年の気象災害について」

#### 近年の水害

- 近年、毎年のように大きな災害が発生しています。
- 令和3年7月豪雨は、東海から関東南部を中心に記録的な大雨となり、静岡県熱海市で土石流が発生しました。
- この日は梅雨前線が西日本から東日本に停滞しており、同じような場所で雨が降り続いて、静岡県や関東の神奈川県箱根辺りでは平成7月1か月分の雨量の2倍近くが僅か4日で降るといった記録的な大雨になりました。



土井邦裕  
NHK名古屋放送局  
気象予報士

#### 土岐川・庄内川の水害

- 土岐川・庄内川においても、平成23年9月の台風15号では、秋雨前線が東海付近にかかり、台風からの暖かく湿った空気が前線を刺激しました。
- こうなると東海地方は台風が接近する前から大雨になり、死者、行方不明者18名といった、大きな被害が起こりました。
- 守山区の志段味では庄内川などが越水し、住家への被害も多く出ました。
- 岐阜県の多治見市では、アンダーパスが浸水したり、大人の胸ぐらいまでの浸水被害も起きました。
- 平成12年の東海豪雨でも、秋雨前線が本州付近に停滞し、台風からの暖かく湿った空気が秋雨前線を刺激しました。
- このため、局地的な豪雨となり、愛知県内、岐阜県内、合わせて6万棟以上が浸水しました。



#### 危険な天気図とは？

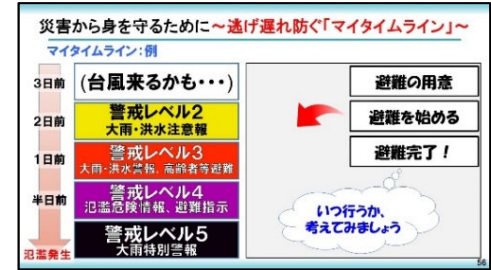
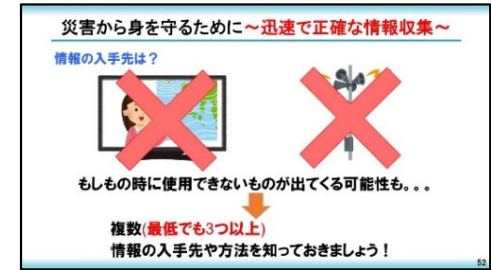
- 東海にとって大きな災害をもたらした現象から、大きく3つ、東海付近に梅雨前線や秋雨前線が停滞していること、本州の東から南東に高気圧がほとんど停滞していること、そして、西日本の南に台風や低気圧があり、暖かく湿った空気を大量にもたらすことが危険なパターンです。

#### 災害から身を守るために

- では、こんな災害から身を守っていくために今後どのようなことを心がけなければいけないのか。
- 多くの防災情報が世の中にはあります。こういう情報をいざというときにどうやって手に入れればいいのかとならないように、**平常時に情報の入手先を確認することが大切です。私の経験上、最低でも3つ以上の情報の収集先を確保してください。**
- 例えば、テレビ、データ放送、ラジオ、防災無線、携帯のエリアメール、インターネットが使える方は川の防災情報や気象庁ホームページ、そして、NHKのニュース・防災アプリ、SNSや無線テレホンサービス等をご活用ください。
- また、**逃げ遅れを防ぐマイタイムライン**をご紹介します。こちらは簡単に言うと避難の時間割です。
- 例えば災害が発生すると仮定して、ある家庭では危険度が上がる前に持病の薬を確認したり、注意報が出た段階でハザードマップを確認したり、こういう順を追ったものをあらかじめ決めておくことで、逃げ遅れを防ぎ避難を完了させることができます。
- こちらは**各家庭、個人だけでなく、大きなコミュニティ、防災組織などでも活用することで大きな力を発揮**するかと思います。

#### まとめ

- 土岐川・庄内川でも過去大きな水害が発生しました。そして、**近年は大雨増加傾向**です。今後も**大雨の被害、記録的な雨が出ないとは限りません。危険な気圧配置に注意をいただいて早めに警戒を高めることが大切です。**そして、災害から命を守るために、防災情報の入手先3つ以上を確保してください。避難の時間割、マイタイムラインの作成も心がけてください。



# 土岐川・庄内川流域治水シンポジウム 開催概要



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

土岐川・庄内川流域治水協議会は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

## パネルディスカッション

### 「土岐川・庄内川の流域治水の未来」

- コーディネーター・・・ 田中 逸人(NHK名古屋放送局 アナウンサー)  
パネリスト…………… 岸田 晃彦(名古屋駅地区街づくり協議会 事務局長)  
中田 英雄(名古屋市副市長)  
長谷川 弘(庄内川・矢田川5学区水防連合会 会長)  
秀島 栄三(名古屋工業大学大学院 教授)  
古川 雅典(多治見市長)  
蘆屋 秀幸(国土交通省中部地方整備局庄内川河川事務所長)



### 流域治水の取組とは

- 【蘆屋】
  - 今から21年前の平成12年9月東海豪雨以降、庄内川では国道1号の一色大橋の架け替えや洗堰のかさ上げ、庄内川本川の河道掘削等の対策を実施しました。
  - しかし、気候変動による水災害のリスクが増大している中、庄内川の安全度はまだ十分ではありません。
  - そこで、昨年度、土岐川・庄内川流域では、国、県、流域の市町、民間企業の方々から構成される流域治水協議会を全国に先駆けて設立し、流域のあらゆる関係者が協働して水災害対策に取り組む体制が構築されました。
- 【古川】
  - 多治見市は中流域にあります。我がまちだけを守るために下流に早く水を流したい、これが昔の考え方です。これでは流域治水になりません。できるだけゆっくり土岐川本川に吐き出していく。そのためにいろんな仕組みをつくりました。
  - 例えば、運動場に一旦水をためる、地下に貯留槽を造る、農業ため池で一旦ためる。
  - また、全国の中でもハード面の整備と共にタイムラインをしっかりと整備、活用しています。
- 【中田】
  - 名古屋市における一番の課題は枇杷島の狭窄部を解消することです。そこにはJRの東海道本線、東海道新幹線、県道枇杷島橋があり、流れにくい状況です。今年度からその中の県道枇杷島橋の架け替えを開始しました。このネック点の解消に努めていきたいと考えております。
  - また、市街化されたことで、降った雨がすぐに川に流れていきます。当然、内水貯留が必要ということで、東海豪雨以来、貯留施設を積極的に市内に造っております。
  - 川に負担をかけず、内水をためて内水氾濫にも備えることで、多治見市さんから受けたバトンを引き継いでいきます。
- 【秀島】
  - 流域治水ということですが、どうも今まで川というものを1つの線として捉えることが強過ぎたのではないかと考えています。岸の手前と向こうで、手前はまち、向こうは川、そういう認識で来てしまった。今まで都市計画と防災計画は別物という感じで来てしまった。
  - そうではなくて、地域、自治体同士で手を組んでいくことが大事だと思う次第です。
  - また、今まで堤防や土木構造物で固めてきた治水を少し見直して、いわゆるグリーンインフラという展開も考えてはどうかと思っています。

### 民間企業、地域住民の皆様のご活動

- 【岸田】
  - 私たちが活動します名古屋駅周辺では、200年に1回発生するような降雨によって庄内川左岸が決壊した場合には、その3時間後に2m浸水するということが想定されています。
  - 風雨が強くなると利用が増える地下施設においては、気象状況等の把握が非常に困難であり、浸水リスクは非常に高いです。
  - そこで、風水害に備えた防災行動を検討するために2014年に検討会が立ち上げられ、庄内川決壊対応タイムライン検討案、また、名古屋地区地下空間タイムライン共通行動版案が策定されました。
  - 地下街管理者の皆様は各事業者独自の基準によって防災行動を実施されていましたが、この策定におきまして、お互いの考え方、立場の違いを理解しながら、総合的に統一した行動を取れることを目指しています。
- 【長谷川】
  - 住民を代表してお話をさせていただきます。私は16歳のときに伊勢湾台風を経験しました。ある家では屋根が飛び、水浸しになった人たちは近くの頑丈な家に逃げ込むこともしました。急遽の避難所となったわけです。当時は近所のお付き合いが結構固く結ばれておりました。
  - あれから62年、あのときのように地域での助け合いなどが本当にできるものでしょうか。残念ながらそういう状況ではないと思っております。
  - 我々が住んでおる名古屋市守山区西部地区は庄内川と矢田川に囲まれた低地です。弱い人や体の不自由な人たちをどうやって助けたいかなど、仲間の方と勉強会をしながら、もっといい環境にしたいと思っております。



パネリスト

古川雅典  
多治見市長



パネリスト

中田英雄  
名古屋市副市長



パネリスト

岸田晃彦  
名古屋駅地区街づくり  
協議会 事務局長



パネリスト

長谷川弘  
庄内川・矢田川5学区  
水防連合会 会長



パネリスト

秀島栄三  
名古屋工業大学大学院  
教授



パネリスト

蘆屋秀幸  
庄内川河川事務所長

# 土岐川・庄内川流域治水シンポジウム 開催概要



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

みんなが暮らす土岐川・庄内川

土岐川・庄内川流域治水協議会は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

## パネルディスカッション

### 水災害に強いまちづくりの推進

- 【中田】
  - 名古屋市ではコンパクトなまちづくりを行っています。浸水想定が深いところなど危険なところを除きながら居住の誘導をしようとして、立地適正化計画の見直しを始めたところでございます。
  - 見直しに当たっては河川管理者の皆様と協力し、災害の発生頻度、規模に応じた水災害リスクの周知を行っています。
- 【岸田】
  - 水害が発生した時、行動できる時間は意外と少ないです。
  - そして、地下空間には名古屋駅周辺の水害リスクとその対応をよく知らないお買物のお客様や地下鉄利用者等、様々な方がいらっしゃいます。
  - 日頃からの備えとして、名古屋駅周辺でどの程度の雨が降れば、どのように内水氾濫が起こって複雑に入り組んだ地下空間へ浸水が始まるのか等々を関係者間で情報共有しながら、エリアとして具体的にどこかの最終避難場所へどのように誘導していくのか等を策定しながら対応していきたいと思っております。
- 【長谷川】
  - 我々は、5学区連合でこの地域を災害に強いまちにするため広域避難を考えております。おかげさまで、どこへ何時にどうすればいいかというアウトラインはできました。
  - しかし、それをどのように指定の避難所へ誘導するか、どのタイミングでどのように誘導するか、非常に大切なことだと思います。
  - 強いまちづくりのために地域が一丸となつていただくことを私は切に思っております。
- 【秀島】
  - 流域、あるいはまちということで捉えてみれば、災害リスクが高いところもあれば低いところもあります。そこがどういう土地であるかを認識するということが大事なわけですね。
  - みんながオープンに情報を共有する。危険なところは危険、そのようなコミュニケーションがもっと増えていくことがまちづくりの中で大事なことだと思います。
  - また、災害リスクの高いところを土木技術、建築技術で固めていくことには限度があります。ハードでできることとできないこと、そのバランスをみんなで考えていくことが今求められていることだと考えます。



### グリーンインフラの活用

- 【蘆屋】
  - 治水事業を行う際には、河川環境への影響に配慮して事業を行うことが非常に重要な観点です。
  - 当事務所では、例えば、河道掘削における環境への影響を確認するための継続的なモニタリングをしております。
  - また、河川環境の創出として、土岐川では礫河原の再生、矢田川ではワンドの整備を行っています。
- 【古川】
  - 多治見市には土岐川観察館という施設があります。土岐川にいる魚、鳥、植物を展示しながら、みんなに土岐川の大切さを教えている施設です。
  - また、今行おうとしているのはかわまちづくりです。日常的に川に対して感謝をする、このようなことがほとんど行われてきませんでした。
  - 土岐川及び支川を徹底的に草刈りをする、ごみ拾いをする、たもを持ってずんどうを歩いて魚を捕まえるなど、水害があったときだけ大騒ぎするのではなく、日常的に川に感謝をすることを子供のときから教えていく、これを楽しみながらやっているというのが多治見市の1つの大きな特徴です。
- 【秀島】
  - 庄内川というのは沿川流域の資産価値が日本で最大ではないかというようなエリアで、グリーンインフラを今からつくりましょうというのはなかなか難しいと思っております。
  - 今ですと、例えば小田井の遊水地、こうしたところが一種のグリーンインフラと捉えることができると思います。
  - 可能な限り、これ以上、緑、水面が減らないようにということを考えなければならない一方で、ゆくゆくは人口減少に伴い空き地が増えていくわけですから、少しずつ緑、水を増やしていくということもできるのではないかと考えています。

### 流域治水の推進のために

- 【古川】
  - 上流域に対して感謝の気持ちをしっかり持ち、下流域に対して心を配る。
  - 次のシンポジウムでは、中学生や高校生を含めて、問題を捉え発信していけると素晴らしい運動になっていくと思います。
- 【中田】
  - 温暖化の影響がある中、持続可能な社会にするためには、治水、防災だけではなくカーボンゼロについても自治体間で一緒に取り組めたらと思います。
- 【蘆屋】
  - 河川管理者としては、河道掘削等の治水事業をしっかり実行し、住民の皆様にも流域治水の取組を理解して行動していただけるよう情報の共有・提供等、一緒に考えていければと思っています。
- 【岸田】
  - 災害後復旧という観点で、エリアの水害リスクをよく知った上でそれぞれの立場でBCPを考えておく必要性を非常に感じております。
- 【長谷川】
  - 人の命は最も大切です。我々はソフトの部分でやれる範囲を頑張ってまいります。
- 【秀島】
  - 土岐川・庄内川の流域治水の取組は、自治体を超えて、企業、市民が総合的に考えていくものです。
  - この取組がさらに活発化されるよう後回しにせず今すぐに始めなくてはならないと思います。